

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の文化芸術及び生涯学習に関する意識や具体的活動状況を把握し、今後の支援施策策定のための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

2 調査の内容

(1) 文化芸術に関する意識調査

- ①文化芸術の活動について（問 1～問 8）
- ②文化財や歴史的遺産を保存・活用する活動について（問 9～問 11）
- ③文化活動について（問 12～問 15）
- ④自由意見（問 16）

(2) 生涯学習に関する意識調査

- ①生涯学習の活動について（問 17～問 22）
- ②地域や社会での活動について（問 23・問 24）
- ③市民活動・生涯学習施設について（問 25）
- ④自由意見（問 26）

3 調査の設計

- (1) 調査対象地域 川越市全域
- (2) 調査対象 川越市在住の満 18 歳以上の市民（令和元年 7 月 1 日現在）
- (3) 標本数 3,000 人
- (4) 抽出方法 川越市住民基本台帳から抽出（無作為抽出）
- (5) 調査方法 郵送法を使った自記式調査票（郵送による配布・回収）
- (6) 調査期間 令和元年 7 月 30 日から令和元年 8 月 16 日

4 回答者の属性

(1) 市全体

内 訳	母集団数	構成比 (母集団) (%)	標本数	有 効 回収数	有 効 [※] 回収率 (%)
市全体	300,160	100.0	3,000	1,338	44.6

※ 総回答数(1,343)から白紙による回答数(5)を除いて算出

(2) 性別[※]

区分 \ 内 訳	母集団数	構成比 (母集団) (%)	標本数	有 効 回収数	有 効 回収率 (%)
市全体	300,160	100.0	3,000	1,338	44.6
男性	149,494	49.8	1,500	575	38.3
女性	150,666	50.2	1,500	732	48.8
その他／答えたくない	—	—	—	7	—
無回答	—	—	—	24	—

※ 有効回収率における女性の割合と男性の割合に大きな差があることに注意が必要である。

(3) 年齢別

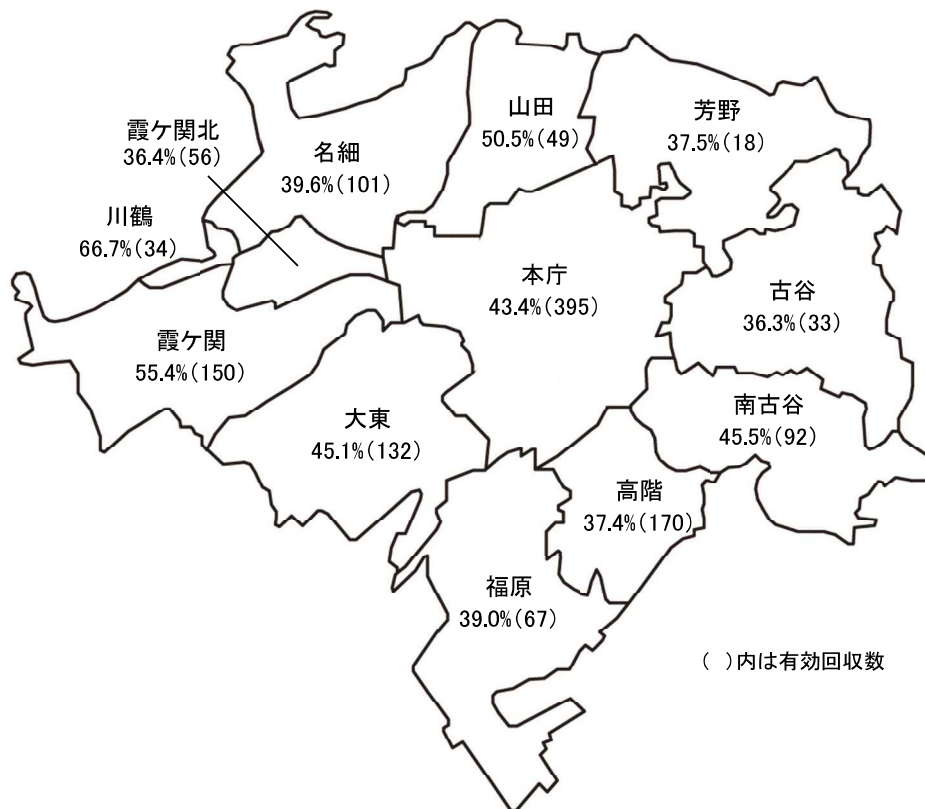
区分 \ 内 訳	母集団数	構成比 (母集団) (%)	標本数	有 効 回収数	有 効 回収率 (%)
市全体	300,160	100.0	3,000	1,338	44.6
18・19 歳	6,898	2.3	47	8	17.0
20-29 歳	37,829	12.6	446	103	23.1
30-39 歳	42,293	14.1	474	189	39.9
40-49 歳	56,039	18.7	544	231	42.5
50-59 歳	44,617	14.9	398	191	48.0
60-69 歳	41,777	13.9	417	251	60.2
70 歳以上	70,707	23.6	674	337	50.0
無回答	—	—	—	28	—

※ 有効回収率における 18・19 歳の割合が少ないことに注意が必要である。

(4) 地区別

区分	内訳	母集団数	構成比 (母集団) (%)	標本数	有効 回収数	有効 回収率 (%)
市全体		300,160	100.0	3,000	1,338	44.6
本庁地区		91,280	30.4	911	395	43.4
芳野地区		4,715	1.6	48	18	37.5
古谷地区		9,059	3.0	91	33	36.3
南古谷地区		20,359	6.8	202	92	45.5
高階地区		45,332	15.1	455	170	37.4
福原地区		17,404	5.8	172	67	39.0
大東地区		29,504	9.8	293	132	45.1
霞ヶ関地区		27,023	9.0	271	150	55.4
川鶴地区		5,100	1.7	51	34	66.7
霞ヶ関北地区		15,298	5.1	154	56	36.4
名細地区		25,295	8.4	255	101	39.6
山田地区		9,791	3.3	97	49	50.5
無回答		—	—	—	41	—

【地区別区分図】



5 集計と表記

(1) 回答率

回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

誤差を考慮し、nが10未満のものについては、コメントしていません。

(2) 表記

調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

(3) 標本集計の誤差

今回の集計は、対象者（母集団 300,160 人）から一部を抽出した標本調査です。そのため、母集団に対する標本誤差が発生します。

標本誤差は、次の公式で求めます。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回収数（比率算出の基数）
 P = 回答の比率（%）

《標本誤差早見表》

単位:%

基数（n）	回答の比率（P）				
	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,338	±1.6%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.7%
1,000	±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
500	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
200	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
100	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
50	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%